

2011年7月20日発行

秋田大学

## 国際交流センターニュース 第6号

Akita University International Exchange Center News

発行者： 国立大学法人秋田大学国際交流センター 〒010-8502 秋田市手形学園町1-1  
<http://www.pcix.akita-u.ac.jp/inter/> 電話：(018) 889-2856 kokusai@jimu.akita-u.ac.jp

- ・留学生との懇談から考えたこと 榎本克彦 (1)
- ・「釣りキチ三平の里」での農業体験 (1)
- ・NAFSA 年次大会参加報告 (1)
- ・海外で学ぶ (2)
- ・春季新留学生オリエンテーション (3)
- ・研究者海外派遣事業成果報告会 (3)
- ・龍華科技大学での合同ワークショップ (3)
- ・大口文庫目録贈呈式 (3)
- ・専任教員からひとこと 市嶋典子 (3)
- ・震災の影響：留学生卒業記念パーティー中止 (4)
- ・多文化交流ラウンジでのミニ講座 (4)
- ・檜岡焼の陶芸体験 王韻晴 (4)
- ・スタッフ紹介6 宮崎舞、加藤浩貴 (4)
- ・大学間協定締結情報 (4)

## ○ 留学生との懇談から考えたこと

榎本克彦

去る5月18日、本年4月に入学した韓国、マレーシア、中国、モンゴルからの留学生との懇談会を行いました。時々ぶらりと多文化交流ラウンジに行き、留学生と簡単な話をしていましたが、今回は留学生の率直な意見を聞ける機会であり、楽しみにしておりました。話し合われた重要ないくつかの点について述べてみます。

交換留学生はA・NETに登録できず講義情報の確認ができない、との指摘がありました。講義情報に関しては、秋田大学に学ぶすべての学生に対して平等であるべきという観点から、早速、教育推進総合センターに文章で要望書を提出しました。早急に対応していただけるものと思っております。学生食堂の混雑問題も、最近食堂が増築されたので改善されるものと思います。

留学生会館に関する要望には切実なものがあります。ゴキブリの大量発生、部屋や環境の汚さ、設備の老朽化、等々です。私達も、最近大型ごみの放置の実態に直面し、管理体制の見直しを検討しています。留学生に対して安心、安全かつ衛生的な住環境を保証することは、受け入れ大学としての最も大事な責務と考えています。改善に向けて最大限の努力をしたいと思っております。

今回、留学生の「生の声」を聞くことができ、私にとって大変有意義でした。今後もこのような機会を増やしたいと考えているところです。

(ENOMOTO, Katsuhiko — 国際交流センター長、医学系研究科 医学専攻 分子病態学・腫瘍病態学講座)

## ○ 「釣りキチ三平の里」での農業体験

西田担当の日本文化入門Ⅰ (An Introduction to Japanese Culture I) の授業の一環として、5月28日(土)から29日(日)にかけて横手市にて農業体験をして参りました。あいにくの天気ではありましたが、田植え等の野外活動の時間には雨が止み、予定どおりの日程を進められたことは本当に奇跡的でした。今回は、横手市役所総務企画部の全面的なご協力を得て、体を使った農作業と疲れを取るための



癒しの温泉、食欲を満たす自然食、そしてグリーンツーリズムの講習という盛りだくさんのプログラムでした。参加した学生は「グリーンツーリズムについての意識が高まった」、「横手市の、ひいては秋田県の魅力を体感できた」と話していました。

(西田文信：NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

## ○ NAFSA 年次大会参加報告

NAFSA は、国際教育担当専門職の非営利団体です。年次大会には、世界中から専門家が集まり、ブースでの広報活動、各種ワークショップ・セッションなどが開催されます。私たちが参加したカナダ・バンクーバーでの大会(5月29日～6月3日)には9,000名近くの参加者がありました。

今回本学はブースを出展しませんでした。セントクラウド州立大学・ミズーリ科学技術大学(アメリカ)、グリフィス大学(オーストラリア)ポハン工科大学(韓国)など、本学と大学間協定を結んでいる大学の担当者と直接顔を合わせて、学生交換に関する具体的な協議・情報交換を行うことができました。留学生派遣担当



写真：セントクラウド州立大学のスタッフと NAFSA 会場にて

として、何のために留学したいのか、なぜ英語を学びたいのか、留学と学生の将来設計との関係を問い直していく必要性を強く感じました。(宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko — 教育文化学部国際コミュニケーション講座)

## 海外で学ぶ

### ● イタリア文化研修旅行、研修報告会……………

2月27日から3月29日の31日間、金平英里子（教育文化学部3年）・桑島佳代・田口萌香（同2年）、佐藤稜（工学資源学部2年）・千葉倫子（医学部1年）の5名がイタリア、カリアリ大学での研修に参加しました。イタリア語初級講座やイタリア統一150周年に関する講義の受講、秋田大学紹介のプレゼンテーションをおこないました。プレゼンは、大講義室で立ち見も出る盛況ぶり、交換留学の制度などについての熱心な質問を受けました。また、屋外



のカフェの前で開いた日本フェアでは、お茶の野点、折り紙、浴衣の着付けなどを行い、多くの教職員・学生が訪れ

て、日本への関心の高さがうかがえました。滞在した学生寮では、イタリア人の学生たちと交流をし、日本ではあまり知られていないサルデーニャ島の魅力にも触れることができ、学生たちはかけがえのない経験をしたことでしょう。（宮本律子：MIYAMOTO, Ritsuko—教育文化学部国際コミュニケーション講座）

### ● ルーマニア文化研修旅行……………

2月27日から3月29日まで、教育文化学部と医学部より2名ずつ計4名の学生がブカレスト大学を訪ねました。ルーマニアはローマ帝国時代のダチア地方にあたるため、イタリアとルーマニア両国の関係を理解する目的で、3日間ローマを訪れたあと、ブカレスト大学で研修を開始しました。滞在中には、英語による日本文化紹介のプレゼンテーション、ブカレスト日本人学校と2つの高校への表敬訪問、ブカレスト経済大学での英語コース見学、ルーマニア人学生による日本語

スピーチコンテストへの参加、大学での英語集中講義への参加、日本語学科での授業協力、さまざまな歴史的施設の見学、



3日間行われた国際会議“Linguistic and Cultural Identity in Japan”への参加など、毎日忙しいプログラムをこなしました。（モリタ・エマ：MORITA, Emma—教育文化学部国際コミュニケーション講座）

### ● 秋田大学紹介に大活躍……………

在ブカレスト日本大使館主催による日本留学フェアが、3月19日と20日にブカレストのヒルトンホテルで開催されました。両日ともブカレスト大学で文化研修中だった教育文化学部国際コミュニケーション選修3年生の伊藤奈々子、人間環境課程1年生の濱田俊太郎、医学部医学科1年の石井良明、富澤宏基、そして、国際コミュニケーション選修3年生で、1年間の長期留学をしている菅原南の計5名の学生が、秋田大学の紹介に尽力し、大盛況の活躍をしてくれました。秋田大学の紹介用DVDを上演した後、終日、秋田大学ブースで簡単なQ&Aで対応しました。結局2日間で750名ほどの参加者があり、日本への留学熱の高さが伺われました。学生諸氏の皆さん本当にご苦労さまでした。（モリタ・エマ：MORITA, Emma—教育文化学部国際コミュニケーション講座）

### ● カナダ留学説明会……………

5月13日、カナダで留学手続きのサポートを行っているT&Dビクトリアサポートセンターの林大輔氏を招いて、カナダ留学説明会を開催しました。会場にはたくさんの学生が集まり、ビクトリア市（ブリティッシュコロンビア州）の魅力やビクトリア大学英語センターのプログラムに関する説明を熱心に聞いていました。夏休みには5名の学生が4週間の日程で英語研修に参加する予定です。（国際交流課）

### ● 海外留学説明会……………

6月10日、17日に、秋田大学から協定校への留学を希望する学生を対象に、秋田大学海外留学説明会を開催しました。説明会全体で約100名の参加がありました。

第1回説明会（アジア地域）では、協定校の説明に加え、JICA秋田デスクの奈良保則国際協力推進員から、青年海外協力



隊・インターンシップに関する説明をしていただきました。第2回説明会（英語圏）では、留学経験者や協定校からの留学生、担当教員から、協定校の特色や魅力をプレゼンテーションしていただきました。

留学をより実り多いものにするためには、周到的な準備と強い問題意識を持つことが何よりも大切です。学生のみならずには、なぜ留学したいのか、将来に留学経験をどう活かしたいのかを主体的に考える姿勢が期待されます。

（市嶋典子：ICHISHIMA, Noriko—国際交流センター）

## ○ 春季新留学生オリエンテーション

4月13日(水)の16:10より学生会館にて春季新留学生オリエンテーションを開催しました。榎本国際交流センター長による歓迎の挨拶に続いて、新留学生と教職員が自己紹介を行いました。その後、国際交流課留学生担当による生活上の諸注意と在留手続について、秋田東警察署の防犯交通安全についての話、秋田県国際交流協会(AIA)から「あきたのファミリー」についての説明がありました。オリエンテーション終了後懇談会を行いました。町内会の方々も10名ほど参加され和やかに歓談しました。新留学生にとっては秋田大学でのよいスタートを切れたと思います。

(西田文信: NISHIDA, Fuminobu — 国際交流センター)

## ○ 研究者海外派遣事業成果報告会

1月26日に開催された本報告会では、高崎康志准教授(国際資源学教育研究センター, 派遣先: モンタナ大学モンタナテック), 高村竜平准教授(教育文化学部, 派遣先: 済州大学校耽羅文化研究所)から、本事業による研究成果をご紹介いただきました。一方、牲川(国際交流センター)による事業総括からは、海外派遣を推進するためには、授業・研究補佐業務の代講を用意するなど組織的支援が必要という課題も浮かび上がりました。

(牲川波都季: SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

## ● 秋田大学研究者海外派遣支援事業報告……………

2010年6月9日から29日, および7月3日から9月17日までアメリカモンタナ州ビュートに滞在し, モンタナ大学モンタナテックにて研究活動を行いました。当初のテーマは基礎分析により実験は困難であることが明らかになり,

Twidwell 教授の紹介により Courtney 教授と Huang 教授が取り組んでいるエナージャイト( $\text{Cu}_3\text{AsS}_4$ )の電位-pH図の作成実験に協力するこ

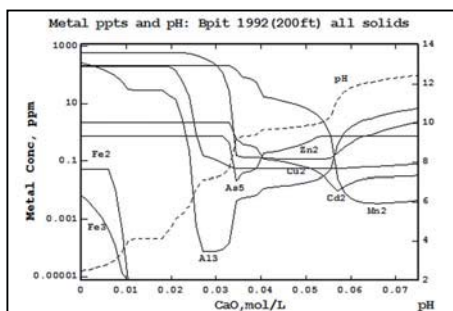


Fig.1 熱力学計算ソフト STABCAL による計算結果例

とになりました。本研究では、電位-電流曲線の測定と Huang 教授が開発した熱力学計算ソフト STABCAL の使用方法を学び (Fig.1 に計算例), 実験結果と STABCAL による計算結果とが良好な相関が見られることを見出すことが出来ました。なお、本研究は現在も博士課程の学生が継続して研究を行っています。(高崎康志: TAKASAKI, Yasushi — 国際資源学教育研究センター)

## ○ 龍華科技大学(台湾)での合同ワークショップ

玉本英夫

3月8日から9日, 龍華科技大学と秋田大学の共催ワークショップに, 工学資源学研究科の学生5名と共に参加しました。人の移動追跡システム, 舞踊学習支援システム, プログラムの可視化, モバイル機器用小型アンテナなど情報通信技術に関するテーマで, 龍華科技大学5名, 秋田大学6名(玉本, 博士1名, 修士4名)が発表をしました。約40名のワークショップ参加者からは活発な意見交換がなされ, 学生にとって有意義な経験になりました。

このワークショップは, 両大学の協定交流事業の一環として開催されたものです。開催にあたり, 龍華科技大学の劉沖明先生, 許威烈先生には大変にお世話になりました。

(TAMAMOTO, Hideo — 工学資源学研究科情報工学専攻)

## ○ 大口文庫目録贈呈式

秋田大学で非常勤講師として長年にわたり, 日本語を教えて下さっていた故・大口孝子先生から, およそ300冊もの日本語教育関連の図書を, 国際交流センターに寄贈して頂きました。当センターでは, ご寄付いただいた書籍を整理し, 「大口孝子文庫」として多文化交流ラウンジに設置することにいたしました。「大口孝子文庫」の設置にあたり, 6月22日に, 目録贈呈式を行いました。贈呈式の後の懇談会では, ご家族の大口健志先生, 大口健一先生, ご友人の佐々木順子先生から, 大口孝子先生のお人柄, 日本語教育への熱意がうかがえるお話を聞かせていただきました。現在, 寄贈していただいた本は, 教員や学生に貸し出されており, 広く活用されています。

(市嶋典子: ICHISHIMA, Noriko — 国際交流センター)

## ○ 専任教員からひとこと

市嶋典子

4月から国際交流センターに赴任した市嶋典子と申します。現在, 留学生の日本語教育プログラムの充実を目指し, 試行錯誤中です。研究領域としては, 日本語教育における評価や実践研究の問題に関心を持っています。個々の日本語教育実践に問われるものは, 教育理念であり, 実践の改善であるということは言うまでもありませんが, これらを自身の実践に収束させるのではなく, プログラムの改善や組織としての理念構築といった, より大きな枠組と連携させ, 発展させていく視座が必要であると思っております。

(ICHISHIMA, Noriko — 国際交流センター)



## 震災の影響：留学生卒業記念パーティー中止

震災の影響で、3月17日に予定されていた留学生卒業記念パーティーは中止となりました。卒業生は、大学院生10名、学部生22名、その他短期交換留学生等21名であり、本学の修了と門出を一緒に祝えなかったことは大変残念でした。

11日午後2時46分の震災発生後、国際交流センターではまず留学生の住む2つの会館を見回ったあと、懐中電灯を購入・設置するなどしました。翌朝、留学生会館を訪れたところ、7、8名の留学生が1階の共有スペースに毛布を持ち込み寝ていました。停電で携帯電話も通じにくい中、個室にいるのは不安だということでした。防災用品が設置されていないという現状も明らかになり、緊急災害への備えの必要性を痛感しました。

週明けからは留学生全員の安否確認を行うとともに、14日に「秋田大学国際交流センターからの緊急連絡」、18日に「留学生及びご家族へ秋田大学から重要なお知らせ」をセンターのウェブに掲載しました。留学生と家族に現状を伝え、地震ならびに原子力発電所の秋田への影響を連絡するためでしたが、一時帰国を選択する留学生も少なからずいました。

3月25日になり授業開始日が4月13日になることを留学生や協定校に連絡しました。しかしこの開始日は、余震や原発事故の影響を恐れて一時帰国したり、影響を見極めから4月からの留学可否を決めたいと考えていた留学生にとって、予想外に早い日程でした。秋田は安全だと両親を説得するのに、航空券を購入するのに、留学生には大変な苦勞を強いたと思います。

最終的には、留学生のほぼ全員が授業開始に間に合うよう戻ってきてくれました。この留学生たちの信頼を裏切らないよう、国際交流センターは緊急時の避難計画を整えるとともに、2つの会館に常備灯を設置するなど、早急に緊急災害への対策を進めていきます。

(牲川波都季：SEGAWA, Hazuki — 国際交流センター)

## 多文化交流ラウンジでのミニ講座

今学期は以下のミニ講座を開きました。

- 5月24日 「バービー人形 vs リカちゃん人形」  
森田智氏 (元バベシユ・ボヨイ大学文学部)
- 6月2日 「ベルリン — 記憶のドイツの首都」  
シュテファニー・アスマン教授 (教育文化学部)  
(佐藤雅彦：SATO, Masahiko — 日本語教育担当教員)

秋田大学の留学生数 2011年度前期 (5月1日現在)

▶ 学部生：93名 ▶ 大学院生：34名 ▶ 交換留学生・研究生等：34名 計：161名

## 檜岡焼の陶芸体験

私は龍華科技大学の交換学生です。6月25日、秋田大学の平成23年度外国人留学生文化体験事業で、大仙市へ行きました。

檜岡焼の陶芸体験をしました。初めて作るから、2時間以上かけました。自分が作ったから、その気持ちを込めて、友たちにあげるのが一番いいプレゼントだと思います。私はカップ、碗と皿、3つを作りました。とても嬉しかった。焼くまで1月を待ちます。それに、色を付けると差別があると聞きました。最後の作品はどうなるでしょうか、期待しています。



午後は酒蔵見学をしました。秋田清酒(刈穂)の経営者は酒について紹興酒やワインなど、いろんな酒の分別を説明してくれました。今回の機会がたくさん酒の知識を得られました。本当にありがとうございました。

(王韻晴：WANG, Yunching — 教育文化学部特別聴講学生)

## 国際交流センター・スタッフ紹介6

### ● 宮崎舞……………MIYAZAKI, Mai

3月に秋田大学を卒業しました「新社会人」宮崎舞です。国際交流を担当しており、日常業務を覚えながら、10月の農家民泊に向けて日々準備を進めています。甘いもの・映画・カラオケ・料理(最近)が大好きです。また、海外旅行の楽しさも覚え始めた今日この頃、オススメ国募集中です♪頑張りますので、これからどうぞよろしくお願ひします。

### ● 加藤浩貴……………KATO, Hirota

2010年4月から留学生担当主査として勤務しています。手形キャンパスでの勤務は7年ぶりで、留学生担当の仕事は初めてです。夏の見学旅行や冬の行事体験旅行など行事の企画立案も担当



写真：左から宮崎，加藤

しているの、旅行先のリクエストをお待ちしております。

## 大学間協定締結情報

- 2011年3月31日 **ボツワナ大学**
  - 2011年6月8日 **東カザフスタン工科大学**
- 両大学とも秋田大学から留学が可能です。(国際交流課)